

Patch Manager ユーザガイド

Arcserve® Backup

18.0

法律上の注意

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserveにより随時、変更または撤回されることがあります。

Arcserveの事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書はArcserveが知的財産権を有する機密情報であり、ユーザは(i)本書に関連するArcserveソフトウェアの使用について、Arcserveとユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または(ii)ユーザとArcserveとの間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書を開示したり、本書を使用することはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品(複数の場合あり)のライセンスを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただしArcserveのすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザはArcserveに本書の全部または一部を複製したコピーをArcserveに返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、Arcserveは本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、Arcserveはお客様または第三者に対し責任を負いません。Arcserveがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserveです。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2019 Arcserve(その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者の財産です。

Arcserve サポート への問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

[テクニカル サポート への問い合わせ](#)

Arcserve のサポート：

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジ ベース(KB)ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- 弊社のライブ チャット リンクを使用して、Arcserve サポート チームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。ライブ チャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバル ユーザ コミュニティに参加して、質疑応答、ヒントの共有、ベスト プラクティスに関する議論、他のユーザとの会話を行うことができます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。
- また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

Arcserve Backup マニュアル

Arcserve Backupドキュメントには、すべてのメジャー リリースおよびサービス パックについての特 定のガイドとリリースノートが含まれています。ドキュメントにアクセスするには、以 下 のリンクをクリックします。

- [Arcserve Backup r18 リリース ノート](#)
- [Arcserve Backup r18 マニュアル選 択メニュー](#)

コンテンツ

第1章: Arcserve Backup Patch Manager について	9
概要	10
Arcserve Backup Patch Manager のコンポーネント	12
Patch Manager GUI	13
Patch Manager Service	14
Arcserve Backup Patch Manager のガイドライン	15
Arcserve Backup Patch Manager の動作	17
利用可能なパッチの確認	19
パッチのダウンロード	23
パッチのインストール	25
パッチのアンインストール	27
電子メール通知	29
レポートの生成	30
第2章: Arcserve Backup Patch Manager のインストール	31
インストールの前提条件	32
Arcserve Backup Patch Manager のインストール	33
インストールオプション	34
サーバの種類を選択	35
インストール後	37
Arcserve Backup Patch Manager のアンインストール	38
第3章: GUI での Arcserve Backup Patch Manager の使用	39
Arcserve Backup Patch Manager GUI についての理解	40
環境設定]ダイアログ ボックスについての理解	45
環境設定の一般設定についての理解	46
環境設定の電子メール設定についての理解	49
環境設定のプロキシ設定についての理解	50
利用可能なパッチを手動で確認	51
手動によるパッチのダウンロード	52
手動によるパッチのインストール	54
手動によるパッチのアンインストール	56
パッチの自動ダウンロードとインストール	58
第4章: Arcserve Backup Patch Manager のトラブルシューティング	61
Patch Manager のトラブルシューティング	62

ネットワークエラーのトラブルシューティング	63
サービスエラーのトラブルシューティング	64
環境設定エラーのトラブルシューティング	65
再試行のタイムアウト	66
更新の確認の失敗	68
パッチインストールの失敗	69
電子メール通知が受信されない	70
インストール中にクライアントまたはステージングサーバのオプションが無効になる	71
「パッチを自動的にダウンロードおよびインストールする」オプションを選択しているのに、 パッチインストールに失敗する	72
Arcserve Backup Patch Manager によって Arcserve Backup ジョブが失敗する	73
パッチのダウンロード中に無効なシグネチャエラーが報告される	74
更新の確認が繰り返し失敗する	75
Arcserve Backup Patch Manager が、ステージングサーバとしてインストールされている か、クライアントとしてインストールされているかわからない	76
Arcserve Backup Patch Manager が自動的に自己更新を実行しているかどうかかわから ない	77
以前インストールしたパッチが Arcserve Backup Patch Manager にリスト表示される	78
インストール前に必要なパッチの説明	79
Patch Manager のアップグレード中に環境設定がリストアされない	80
Patch Manager のアップグレード中にパッチ情報がリストアされない	81
トラブルシューティングの概要	82
Patch Manager からパッチをダウンロードするための前提条件	83
第5章: 用語集	87
チェックサム	88
クライアント	88
重要なパッチ	88
累積パッチ	88
デバイスパッチ	88
簡易更新	88
個別のパッチ	88
パッチ	89
前提条件パッチ	89
パッチの発行	89
セキュリティパッチ	89
SP	89

ステージング サーバ	89
スーパーシード パッチ	90
テスト パッチ	90

第1章: Arcserve Backup Patch Manager について

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[概要](#)

[Arcserve Backup Patch Manager のコンポーネント](#)

[Arcserve Backup Patch Manager のガイドライン](#)

[Arcserve Backup Patch Manager の動作](#)

概要

Arcserve では、パッチを使用して、ユーザに改良された製品 (発行済みパッチ) を提供します。パッチを通じて、バグの修正、新しいハードウェアのサポート、パフォーマンスとセキュリティの拡張が配布されます。(サービスパックのリリースは、Arcserve Backup Patch Manager によって配布されません。)

これまで、Arcserve Backup ユーザは、パッチがリリースされると手動でダウンロードして適用する必要がありました。また、修正やパッチがリリースされていないかどうかを確認するために、頻繁に Arcserve サポートの Web サイトにアクセスする必要がありました。Arcserve Backup Patch Manager は、このプロセスを簡略化し、Arcserve Backup インストール環境を最新のパッチおよび更新で自動的に最新の状態にするための迅速で容易、かつ信頼できる方法を提供します。Arcserve Backup Patch Manager は、Windows 上で動作する Arcserve Backup (およびエージェント) と Arcserve を結ぶリンクであり、インストール済みの Arcserve Backup を自動更新したいすべてのマシンにインストールする必要があります。

Arcserve Backup Patch Manager は以下の機能を提供します。

- すべての新規および利用可能なパッチを確認する。
- 重要なパッチを自動で確認し、ダウンロード、インストール、アンインストールの実行中に選択したパッチに対する依存ルールを判断する。
- 利用可能なパッチのダウンロードおよびインストールを自動 (重要なパッチの場合のみ) または手動でトリガする。
- パッチの自動ダウンロード/インストールに対するカスタムのスケジュールを指定する (重要なパッチの場合のみ) 。
- 新しいパッチが利用可能になった場合、ダウンロードされた場合、インストールされた場合に電子メール通知を自動で送信する (設定された場合) 。
- パッチがインストールされた Arcserve Backup の現在の状態を表すレポートを生成し、サーバ上でダウンロード、インストール、アンインストールされたパッチの履歴を表示するレポートを生成する。この包括的なレポート機能により、どのマシンについてもパッチの完全なステータスを把握するのに役立つレポートに簡単にアクセスすることができます。
- 特定のパッチに関する便利なツールチップを表示する (例 : パッチのダウンロード日、パッチのインストール日、パッチの種類など) 。
- 「アラートおよびメッセージ」を迅速かつ容易に参照できる情報ペインに表示する。これらのアラートおよびメッセージには、前回の確認の日時、新しいパッチの数、パッチの分類 (重要、セキュリティ更新、デバイスパッチなど) の情報が含まれます。

- Arcserve サポートの Web サイトで発行されたパッチの Readme を表示する機能。特定のパッチの詳細または追加情報については、Arcserve テクニカル サポート(オンライン サポート) までお問い合わせください。
- Patch Manager サービスのステータスを GUI に表示する。
- クライアントとステージング サーバから Arcserve のテクニカル サポートに(直接またはプロキシ サーバ経由で) 接続するように設定する。
- インターネット へのアクセスが制限されたデータ センターに対してステージング サーバを使用する。
- ステージング サーバとして展開された Arcserve Backup Patch Manager が、すでに存在する別のステージング サーバを参照する。
- プロキシ サーバを使用する。
- 必要に応じて手動でパッチをアンインストールする。
- Arcserve Backup Patch Manager が自己パッチが利用可能になった場合に自身を更新する。

注: Arcserve Backup Patch Manager 自身のパッチは [製品] ドロップダウンメニューや [パッチの更新] ペインには表示されません。自己パッチは常と重要なパッチとみなされ、すべてのアクション(更新の確認、ダウンロード、インストール) は、スケジュールに従って自動的に実行されます。

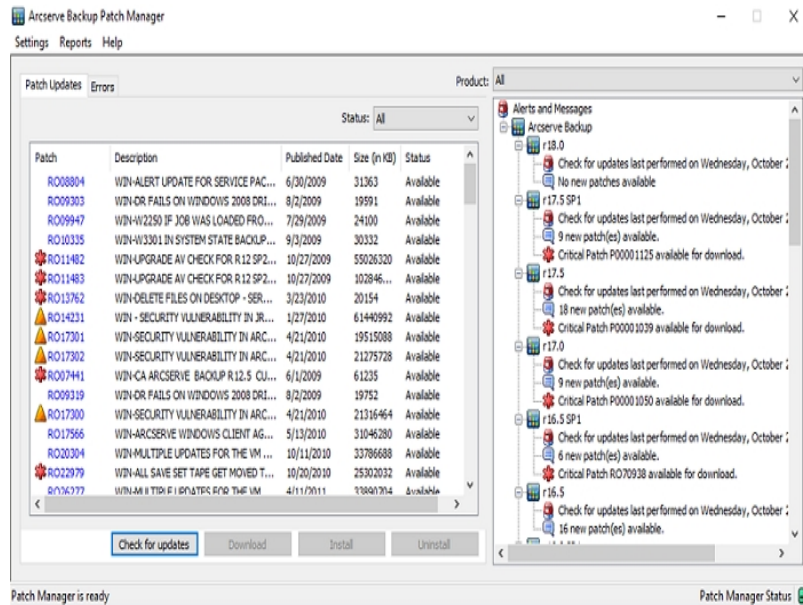
Arcserve Backup Patch Manager のコンポーネント

Arcserve Backup Patch Manager は以下 のコンポーネントから構成 されます。

- [Patch Manager GUI](#)
- [Patch Manager サービス](#)

Patch Manager GUI

Patch Manager のグラフィカル ユーザ インターフェイス(GUI) を使用して、パッチのダウンロードおよびインストールの環境設定とスケジュールを管理できます。Patch Manager GUI には、利用可能で、ダウンロードおよびインストールされた発行済みパッチのリストとステータスが表示されます。詳細については、「[Arcserve Backup Patch Manager GUI についての理解](#)」を参照してください。



Patch Manager Service

Patch Manager サービス(Arcserve Backup Patch Manager サービス) は、コア エンジンで、パッチをダウンロード/インストールするために GUI またはパッチ スケジューラからのリクエストを実行します。また、電子メール通知の送信も担います。パッチ スケジューラは、Patch Manager サービスに不可欠な要素です。パッチ スケジューラは、スケジュールした時刻に開始され、利用可能なパッチの自動確認または利用可能なパッチの自動ダウンロード/インストールをトリガします。

Arcserve Backup Patch Manager のガイドライン

Patch Manager のガイドラインを以下に示します。

- Arcserve Backup 環境では、Arcserve Backup コンポーネントが存在する場所に Patch Manager をインストールします。Patch Manager のインストールは、Arcserve Backup を実行しているシステムと、関連する Windows ベースのエージェントに適用されます。

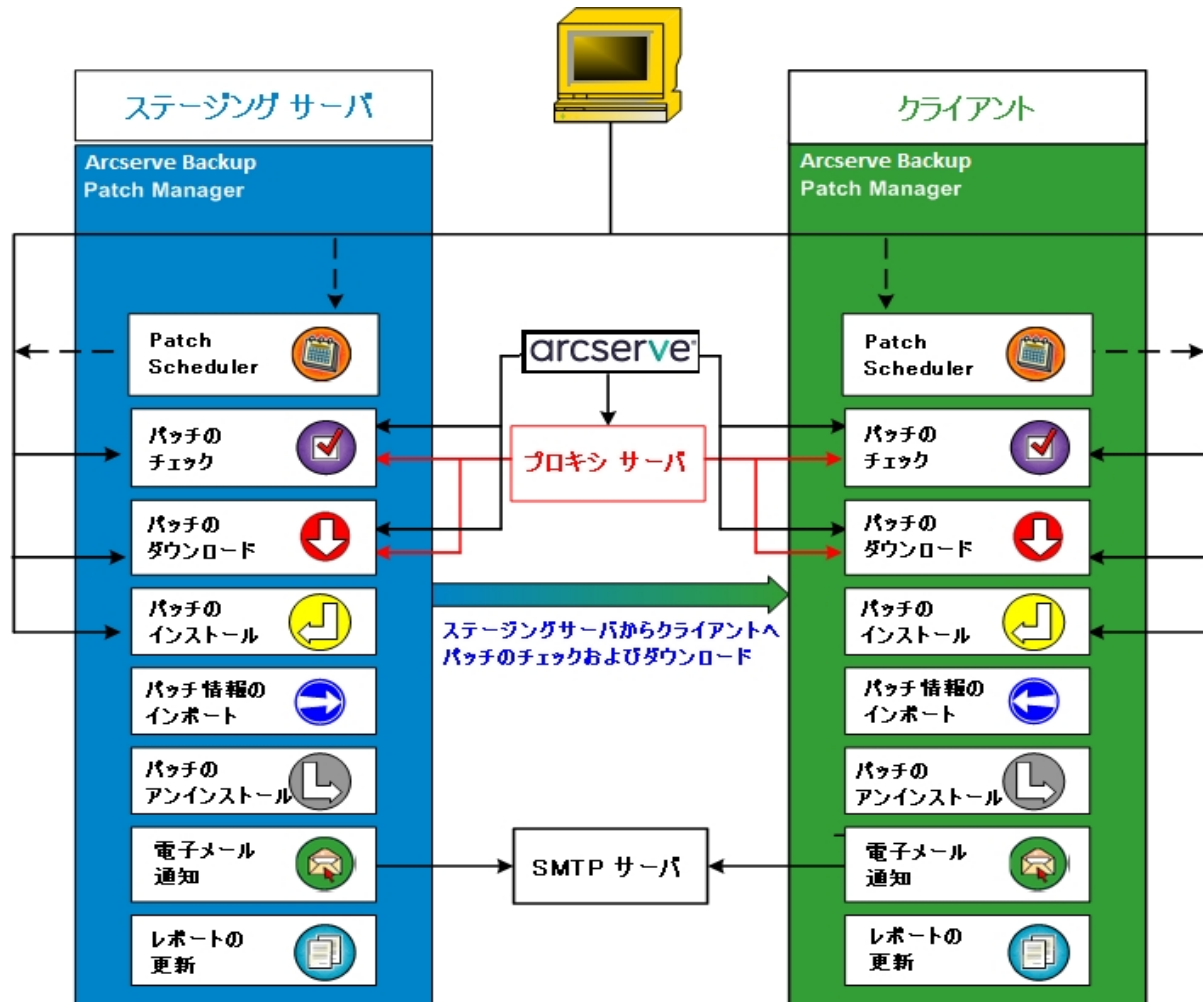
たとえば、1 つの Arcserve Backup ドメインには Arcserve Backup をインストールしたマシンやサーバを複数配置できますが、そのすべてに Patch Manager を個別にインストールできます。
- ステージング サーバは Arcserve Backup がインストールされているサーバにインストールする必要はありません。

注：ステージング サーバは、ダウンロードしたパッチを、Arcserve Backup クライアントにインストールする前に一時的に保存する場所として使用するサーバです。
- クライアントは、Arcserve Backup コンポーネントがインストールされているマシン上にインストールする必要があります。
- (手動でまたは自動的に) パッチをダウンロードおよびインストールする場合は、必ず Arcserve Backup コンポーネントが動作するマシンに Patch Manager クライアントをインストールしてください。
- Patch Manager の各インストールについて、パッチを、ローカルのステージングサーバから取得するのか、または、直接 Arcserve のテクニカル サポートの Web サイトから取得するのかを設定する必要があります。
- 自動的なパッチのダウンロードおよびインストールは、重要なパッチに対してのみ適用されます。
- ほかのクライアントがステージングサーバと通信し、パッチをダウンロード/インストールできるように、ローカルのステージングサーバでは HTTP を有効にする必要があります。
- 設定によって、Patch Manager がプロキシサーバ経由で利用可能なパッチを取得するようにできます。
- ダウンロードするパッチを手動で選択した場合、その依存パッチも選択されてダウンロードされます(ただし、依存関係にかかわらず、どのパッチをダウンロードするかは選択できます)。スケジュールされたリクエストの場合、利用可能な新しいパッチがすべてダウンロードされます。この場合、パッチの依存関係はチェックされません。

- パッチは、そのすべての依存パッチが正常にインストールされている場合にのみ、インストールできます。
- パッチをアンインストールする前に、Patch Manager はインストールされている依存パッチをチェックします。
- パッチは、その依存パッチがすでにアンインストールされている場合にのみ、アンインストールできます。
- パッチをアンインストールできるのは、そのパッチが、インストールされている別のパッチの前提条件パッチでない場合のみです。

Arcserve Backup Patch Manager の動作

Arcserve Backup Patch Manager では、使用可能なパッチの収集、分析、ダウンロード、インストールのプロセスを自動化することにより、Arcserve Backup パッチおよび更新をプロアクティブに管理できます。



Arcserve Backup がサーバにインストールされていると判断された場合、Arcserve Backup Patch Manager は、インストール環境をスキャンし、すでにインストールされているパッチを判断し、使用可能なすべての更新に対して比較します。(使用可能な更新のチェックでは、製品リリースでフィルタすることができます。) パッチのダウンロード/インストールは手動でトリガするか(すべてのタイプのパッチ)、パッチの自動ダウンロード/インストールのスケジュールを設定します(重要なパッチのみ)。

ステージングサーバは、パッチが Arcserve Backup クライアントにインストールされる前にパッチのダウンロード用の一時的な格納場所として使用できます。Arcserve サーバからパッチをダウンロードするために、すべての実稼働サーバをインターネットに接続することが望ましくないと考えられる場合もあります。その場合、まずスロー

カルのステージング サーバにパッチをダウンロードすることによって、他の本稼働サーバがそのローカルステージングサーバからパッチをダウンロードすることが可能になります。Arcserve Backup Patch Manager を、インターネットに公開されているサーバ上にインストールし、パッチをそのサーバにダウンロードできます。Arcserve Backup Patch Manager を Arcserve Backup がインストールされている実稼働サーバにインストールし、パッチをダウンロードおよびインストールするためにこのローカルのステージングサーバを参照するようにします。

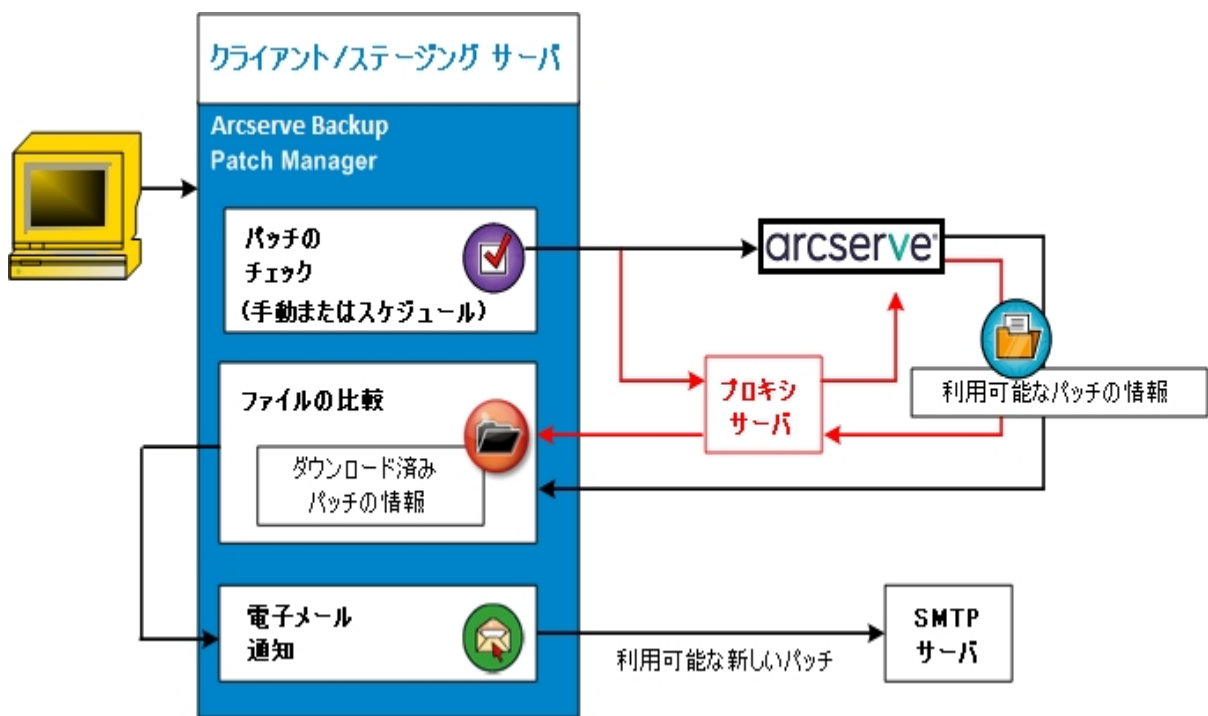
Arcserve Backup Patch Manager は以下の機能を提供します。

- 利用可能なパッチをチェックします(手動またはスケジュール設定)
- Arcserve からの利用可能なパッチのダウンロード(直接クライアントに、またはステージングサーバに)
- ダウンロードされたパッチをインストールします。インストールプロセスは、パッチがマシン(ステージングサーバまたはクライアント)にダウンロードされた後に開始されます。
- 新しいパッチが利用可能な場合、パッチのダウンロードが実行された場合、パッチのインストールが実行された場合などのイベントに対して電子メール通知を送信します
- 現在のステータスおよびパッチのインストール/アンインストールの履歴に関するレポートを生成します。
- パッチの依存関係の確認
- パッチのアンインストール(必要に応じて)

利用可能なパッチの確認

Arcserve Backup Patch Manager には、利用可能な新しい Arcserve Backup のパッチや更新を、直接 Arcserve から、または(設定に応じて)プロキシサーバ経由で、チェックする機能があります。利用可能なパッチの確認機能は、ユーザインターフェース(GUI) から手動で、またはパッチ スケジューラで指定したとおりに自動的にトリガできます。

トリガされた Arcserve Backup Patch Manager は、Arcserve サポートに接続し、利用可能なパッチの情報が含まれたファイルを確認します。この利用可能なパッチ情報ファイルが前回の確認以降に変更されていると判断されたら、比較のためにサイトからダウンロードされます。利用可能なパッチ情報は、すでにダウンロードされたパッチ情報が含まれる別のファイルと比較され、どちらのパッチの方が新しいかと、これまでにダウンロードおよびインストールされていないかどうか判断されます。



- パッチが以前にダウンロードされていないと判断された場合、Arcserve Backup Patch Manager は、そのパッチを利用可能なパッチとして指定します。
- パッチが正しいチェックサム値とファイル名ですでにダウンロードされていると判断された場合、Arcserve Backup Patch Manager は、物理的な場所にパッチがあるかどうかを確認します。

- 物理ファイルがなく、インストールされていない場合は、そのパッチが利用可能なパッチとして指定されます。
- パッチファイルがパッチリポジトリに存在する場合(正しいチェックサム、デジタル署名、ファイル名を使用)、以前のステータス(ダウンロード済み)は保持されます。
- パッチファイルは存在するが、すでにダウンロードされているパッチ情報(ファイル名およびチェックサム値)が、利用可能なパッチ情報と一致しない場合、そのパッチは利用可能なパッチとして指定されます。
- 新しいパッチが利用可能であることを知らせる電子メール通知が送信されます(設定している場合)。

ユーザが開始する更新用パッチ確認プロセス

利用可能なパッチの確認を開始するように選択した場合(スケジュールによる確認を指定する代わりに)、このタスクのプロセスは以下のように行われます。

1. 確認する製品を選択します(Arcserve Backup)。
2. 選択した製品に対して [更新の確認] ボタンをクリックします。

利用可能なパッチの情報が Arcserve サポート からクライアントまたはステージングサーバにダウンロードされます(変更があった場合)。

3. 利用可能なパッチの情報が、すでにダウンロードされたパッチの情報が含まれるローカルに存在するファイルと比較されます。

選択した製品に対して利用可能なすべての Arcserve Backup パッチのリストが表示されます。

4. 新しい Arcserve Backup パッチのダウンロードが可能であることを伝える電子メール通知が送信されます(設定している場合)。

スケジュールされた更新用パッチ確認プロセス

利用可能なパッチに対する自動確認をスケジュールように選択した場合(ユーザーが開始する確認を指定する代わりに)、このタスクのプロセスは以下のように行われます。

1. 自動確認に対して設定された時間に基づいて、Arcserve Backup Patch Manager は、利用可能なパッチの確認を開始するようにパッチ スケジューラをトリガします。

利用可能なパッチの情報が Arcserve サポート からクライアントまたはステージング サーバにダウンロードされます(変更があった場合)。

2. 利用可能なパッチの情報が、すでにダウンロードされたパッチ情報およびインストールされたパッチ情報が含まれるローカルに存在するファイルと比較されます。
選択した製品に対して利用可能なすべての Arcserve Backup パッチのリストが表示されます。
3. 新しい Arcserve Backup パッチのダウンロードが可能であることを伝える電子メール通知が送信されます(設定している場合)。

パッチのダウンロード

Arcserve Backup Patch Manager では、利用可能なパッチおよび更新を、Arcserve サポート サーバ(HTTP 経由) から直接ダウンロードするか、または Arcserve サポート サーバに接続するよう設定されたローカルのステージング サーバからダウンロードできます。このパッチのダウンロード機能は、ユーザ インターフェイス(GUI) から、または Patch Scheduler で指定して自動的に(重要なパッチのみ)、トリガできます。

注： Patch Manager に表示されている特定の Arcserve Backup パッチに関する追加情報を取得するには、Arcserve テクニカル サポートまでお問い合わせください。

トリガされた Arcserve Backup Patch Manager は、Arcserve サポートに接続し、利用可能なパッチを(利用可能な依存パッチと共に) ダウンロードして、保持ディレクトリ(ステージング サーバ上またはクライアント上) に保存します。パッチはインストールプロセスの次の段階に進む指示が出るまで、ここに保存されます。(ダウンロードされたパッチがインストール後に削除されることはありません)。また、Arcserve Backup Patch Manager は、ダウンロード済みパッチ情報レポートに最新のステータスを反映させます。

新しいパッチがダウンロードされたことを知らせる電子メール通知が送信されます(設定している場合)。

パッチのダウンロード プロセス

利用可能なパッチのダウンロードを手動で開始した場合も、自動ダウンロードをスケジュールした場合も、このタスクのプロセスは以下のように行われます。

重要: パッチの自動ダウンロード/インストールのスケジュールされた日時を指定している場合、スケジュールされている他のアクティブな Arcserve Backup ジョブ(バックアップ、リストア、スキャン、マージ、テープコピーなど)と同時に実行されないか、競合しないことを確認してください。一部のパッチのインストールにより、Arcserve Backup サービスがシャットダウンされ、ジョブが中断される可能性があります。

注: Arcserve Backup パッチの自動ダウンロードおよびインストールは、緊急パッチに対してのみ適用されます。

1. プロセスがトリガされると、利用可能な新しいパッチ(と依存パッチ)が、直接 Arcserve サポート サイトから、または(設定した)プロキシサーバ経由で、保持ディレクトリにダウンロードされます。

デフォルトでは次のフォルダにパッチがダウンロードされます: X:\Program Files\CA\SharedComponents\PatchesRoot

注: 保持ディレクトリの空き容量がなくなると、利用可能なディスク容量がないことを表すステータスが [エラー] タブに表示され、この状態を知らせます。

2. 新しい Arcserve Backup のパッチがダウンロードされると、電子メール通知が送信されます(設定している場合)。
3. レポート タスクが起動され、最新のステータスを反映したパッチのダウンロードレポートが生成されます。

パッチのインストール

Arcserve Backup Patch Manager は、利用可能で正常にダウンロードされたパッチおよび更新をインストールする機能を提供します。このインストール機能は、ユーザインターフェース(GUI) からトリガされるか、または内部パッチスケジューラにより指定どおりに自動的にトリガされます(重要なパッチのみ) 。Arcserve Backup Patch Manager 用のパッチは、GUI には表示されません。これらの自己パッチは、常に重要なパッチとみなされ、スケジュールどおりに自動的にインストールされます。

注： Patch Manager に表示されている特定の Arcserve Backup パッチに関する追加情報を取得するには、Arcserve テクニカル サポートまでお問い合わせください。

トリガされたら、Arcserve Backup Patch Manager は、指定したパッチに、インストールが必要な依存パッチが存在するかどうかをまずチェックします。

- すべての依存パッチがすでにダウンロードおよびインストールされている場合、指定されたパッチのインストールプロセスは続行します。パッチは、保持ディレクトリから対応するクライアントまたはステージングサーバの適切な Arcserve Backup コンポーネント ディレクトリにインストールされます。
- インストール用に選択されているパッチに、まだダウンロードされていない前提条件パッチがある場合は、前提条件パッチが先にダウンロードされ、その後インストールプロセスが続行します。

ステージングサーバからクライアントへのパッチのインストールを直接トリガすることはできません。パッチはステージングサーバからクライアントにダウンロードされ、その後クライアントでインストールプロセスがトリガされます。

新しいパッチがインストールされたことを知らせる電子メール通知が送信されます(設定している場合) 。さらに、インストールされたパッチのレポートが最新のステータスで更新されます。

パッチのインストールプロセス

ダウンロードされたパッチのインストールを手動で開始することを選択するか、自動インストールをスケジュールすることを選択した場合、このタスクのプロセスは以下のように行われます。

注： Arcserve Backup パッチの自動ダウンロードおよびインストールは、緊急パッチに対してのみ適用されます。

1. トリガされたら、ダウンロードされたパッチを(その依存パッチと共に)、クライアントまたはステージングサーバのいずれかからインストールします。
2. 新しい Arcserve Backup のパッチがインストールされたことを知らせる電子メール通知が送信されます(設定している場合)。
3. レポート タスクが起動され、最新のステータスで更新されたインストール済みパッチのレポートが生成されます。

パッチのアンインストール

Arcserve Backup Patch Manager は、選択した製品に対して正常にインストールされているパッチおよび更新をアンインストールする機能を提供します。このアンインストール機能は、ユーザ インターフェイス(GUI) から手動でのみトリガでき、自動ではスケジュールできません。

トリガされたら、Arcserve Backup Patch Manager は、指定したパッチに、先にアンインストールが必要な依存パッチが存在するかどうかをまずチェックします。インストールされている他のパッチへの依存関係を持たないパッチのみをアンインストールできます。

- すべての依存パッチがすでにアンインストールされている場合、アンインストールプロセスは続行します。
- パッチに、インストールされている別のパッチへの依存関係がある場合、エラーメッセージが表示され、アンインストールプロセスを続行するには依存パッチを先にアンインストールする必要があることが示されます。依存パッチのアンインストールは強制されません。

インストール済みパッチの履歴レポートが、「アンインストール」ステータスで更新されます。

パッチのアンインストールプロセス

インストールされたパッチのアンインストールを選択した場合、このタスクのプロセスは以下のように行われます。

1. トリガされたら、Arcserve Backup Patch Manager は、選択したパッチをアンインストールします。
注：選択されたパッチが、(インストール済みの)別のパッチの前提条件である場合はアンインストールされません。
2. レポート タスクが起動され、更新されたインストール済みパッチのレポートが生成されます。

電子メール通知

Arcserve Backup Patch Manager は、以下のイベントに対して自動電子メール通知を送信する機能を提供します。

- 新しいパッチが利用可能な場合
- パッチのダウンロードが完了した場合
- パッチのインストールが完了した場合

Arcserve Backup Patch Manager は、インターネット経由で Arcserve からユーザのサーバにこれらの電子メール通知を送信できるようにするために、SMTP サーバに (適切な認証情報を使用して) 接続します。

注：サーバが指定されていない場合、デフォルトでは、MX (Mail Exchange) を使用して同じドメイン内のユーザに電子メール通知を配信します。

レポートの生成

Arcserve Backup Patch Manager は、現在のステータスと履歴ステータスのレポートを生成する機能を提供します。Arcserve Backup Patch Manager のレポート機能は、適用された更新およびパッチを追跡するのに使用でき、発生する可能性がある問題のトラブルシューティングにも役立ちます。

以下のレポートを生成できます。

- サーバに対してダウンロードされたパッチ
- サーバに対してインストールされたパッチ(現在または履歴)

第2章: Arcserve Backup Patch Manager のインストール

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[インストールの前提条件](#)

[Arcserve Backup Patch Manager のインストール](#)

[インストールオプション](#)

[インストール後](#)

[Arcserve Backup Patch Manager のアンインストール](#)

インストールの前提条件

Arcserve Backup Patch Manager をインストールする前に、以下の前提条件を確認します。

- ローカル サーバは、ステージング サーバとして使用できます。Arcserve Backup Patch Manager がステージング サーバとしてローカルにインストールされている場合、Microsoft インターネット情報サービス(IIS) 6.0 以降もローカルサーバにインストールされている必要があります。

ステージング サーバでは、IIS に対して既定の IIS サイトが利用可能で実行されている必要があります。

- クライアント タイプのインストールの場合は、事前に Arcserve Backup r18 コンポーネントをクライアントにインストールしておく必要があります。

Arcserve Backup Patch Manager のインストール

以下の手順に従います。

1. Arcserve Backup インストールメディアをマウントし、ルート ディレクトリから *Setup.exe* を実行して、インストールプロセスを起動します。
[インストールの種類]ウィザードが表示されます。
2. [インストール]をクリックします。
[Arcserve Backup のセットアップ]ウィンドウが表示されます。
3. **使用許諾契約** タブで [次へ]をクリックします。
[方式]タブが表示されます。
4. 必要なオプションを選択して、[次へ]をクリックします。
[インストールの種類]タブが表示されます。
5. 利用可能な [インストールの種類を指定してください]オプションから [カスタム]オプションを選択します。
6. [カスタム]オプションから [その他]を選択し、[次へ]をクリックします。
7. コンポーネント リストから Arcserve Backup Patch Manager を選択し、[次へ]をクリックします。

注： Arcserve Backup Patch Manager をクライアントとしてインストールするには、サーバに少なくとも 1 つの Arcserve Backup コンポーネントがインストールされている必要があります。

デフォルトでは、Arcserve Backup Patch Manager は以下の場所にインストールされます。

C:\Program Files (x86)\CA\Shared Components\APM\Patch Manager

8. ウィザード画面の指示に従って、Arcserve Backup Patch Manager のインストールを完了します。
9. インストールが完了したら、製品 サービスは Windows サービスコントロールマネージャ (SCM) に Arcserve Backup Patch Manager として登録されます。

注： 初めてインストールする場合、Arcserve Backup Patch Manager では、以前インストールされた公開済みのパッチに関する情報のみが自動的にインポートされます。

インストールオプション

インストールプロセス中、ウィザード画面で、選択されたインストールの種類に基づいていくつかのオプションを指定するように要求されます。

サーバの種類を選択

下記の利用可能なオプションに基づいて、ローカルマシンの [サーバの種類] を選択します。

- クライアント
- ステージングサーバ

以下のデフォルトパッチダウンロードパスは、クライアントおよびステージングサーバに適用されます。

`C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\PatchesRoot`

パッチを別の場所にダウンロードするには、[参照] をクリックします。

クライアント

ローカルサーバが Arcserve Backup Patch Manager クライアントとして使用されるように指定します。1 つ以上のマシンに Arcserve Backup Patch Manager をインストールすると、ステージングサーバまたは Arcserve サポートサーバからパッチをダウンロードするのに役立ちます。

クライアントインストールの前提条件として、Arcserve Backup Patch Manager は 1 つ以上の Arcserve Backup コンポーネントがインストールされているマシンにインストールする必要があります。

[クライアント] オプションを選択すると、以下の利用可能なオプションのいずれかを選択できます。

- ◆ **Arcserve サーバ(デフォルト)** : Arcserve サーバオプションを選択すると、Arcserve サポートサーバからパッチをダウンロードできます。
- ◆ **ステージングサーバ名** : ステージングサーバ名オプションを選択すると、ステージングサーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。

注：使用しているローカルホストマシンをステージングサーバとして指定することはできません。ローカルホストマシンをステージングサーバとして使用しようとする、無効な環境設定となり、ステージングサーバは利用可能なパッチを取得およびダウンロードするために自身に接続できません。

パッチは、Arcserve Web サイトから、指定したステージングサーバロケーションにダウンロードされます。ステージングサーバへのパッチのダウンロード完了後に、ステージングサーバからクライアントにパッチをダウンロードできます。

ステージングサーバ

ローカルサーバをステージングサーバとして使用し、Arcserve Backup Patch Manager をステージングサーバに直接インストールするように指定します。

ステージングサーバのインストールの前提条件として、Arcserve Backup Patch Manager は Microsoft Internet Information Services (IIS) 6.0 以降がすでにインストールされているマシンにインストールする必要があります。

注：ステージングサーバでは、IIS のデフォルトの IIS サイトが利用可能で、実行中になっている(匿名接続を許可する]セキュリティオプションも正しく選択されている) 必要があります。

HTTP ロケーション ディレクトリ(<http://localhost/capm>) がステージングサーバ上に自動的に作成され、すべてのパッチがこのディレクトリの capm フォルダにダウンロードされます。

インストール後

以下の条件は、インストールプロセスが完了した後に適用されます。

- Arcserve Backup Patch Manager が「プログラムの追加と削除」ツールの「現在インストールされているプログラム」のリストに追加されます。必要に応じて、Arcserve Backup Patch Manager は標準の「プログラムの追加と削除」機能を使ってアンインストールできます。
- プログラムのショートカット (Patch Manager) が Start/Arcserve/Arcserve Backup Patch Manager ディレクトリに自動的に作成されます。これにより、必要に応じて、手動で Arcserve Backup Patch Manager を起動し、利用可能なパッチのチェック、パッチのダウンロード、およびパッチのインストールを実行できます。
- ステージング サーバを使用した展開では、ステージング サーバ Web サイト (<http://localhost/capm>) が作成され、利用可能なパッチが管理されます。
- レスpons ファイルを作成した場合、指定したインストールパラメータは「setup.icf」ファイルに保存され、以下のコマンドの実行によるサイレントインストールで使用されます。

```
>mastersetup.exe /I:"C:\Users\Administrator\Documents\Setup.icf"
```
- インストールが完了すると、Arcserve Backup Patch Manager のエントリがレジストリに作成されます。
- インストールが成功すると、最後に Arcserve Backup Patch Manager サービスが作成されます。
- Arcserve Backup Patch Manager のインストールよりも前にインストールされていた発行済みパッチのみがインポートされ、「パッチの更新」ペインに表示されます。
- Arcserve Backup Patch Manager のフォルダ構造は以下のとおりです。
`C:\Program Files (x86)\ca\SharedComponents\APM\PatchManager`

注： Arcserve Backup Patch Manager は、インストール中にすべてのデフォルト設定を考慮します。インストール後、[環境設定](#)を変更できます。

Arcserve Backup Patch Manager のアンインストール

Arcserve Backup Patch Manager は標準の [プログラムの追加と削除] 機能を使用してアンインストールできます。

注: Arcserve Backup Patch Manager のアンインストール後も、パッチ ステータス ファイルとパッチ履歴ファイルは APM フォルダに残ります。ただし、Arcserve Backup 自体が完全にアンインストールされた場合はこれらのファイルが削除されます。

第3章: GUI での Arcserve Backup Patch Manager の使用

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[Arcserve Backup Patch Manager GUI についての理解](#)

[「環境設定」ダイアログボックスについての理解](#)

[利用可能なパッチを手動で確認](#)

[手動によるパッチのダウンロード](#)

[手動によるパッチのインストール](#)

[手動によるパッチのアンインストール](#)

[パッチの自動ダウンロードとインストール](#)

Arcserve Backup Patch Manager GUI についての理解

Arcserve Backup Patch Manager を使用する前に、ユーザ インターフェースに慣れている必要があります。Arcserve Backup Patch Manager のグラフィカル ユーザ インターフェース(GUI) では、パッチのチェック、ダウンロード、インストールの環境設定、スケジューリング、およびモニタリングを管理できます。ダウンロード、インストール、またはアンインストールされたパッチのリスト(現在および履歴) を参照することもできます。GUI は、複数の表示ペイン、メニュー、オプションから構成されます。

注: Arcserve Backup Patch Manager 自身のパッチは [製品] ドロップダウンメニューや [パッチの更新] ペインには表示されません。自己パッチは常と重要なパッチとみなされ、すべてのアクション(更新の確認、ダウンロード、インストール) は、スケジュールに従って自動的に実行されます。

設定]メニュー

[環境設定] ダイアログ ボックスにアクセスし、この個別ジョブに対する Arcserve Backup Patch Manager の環境設定を指定できます。この [環境設定] ダイアログ ボックスで指定した設定は、インストール ウィザードを通じて、またはデフォルトで指定されている設定よりも優先されます。

[環境設定] ダイアログ ボックスに関する詳細については、「[\[環境設定\] ダイアログ ボックスについての理解](#)」を参照してください。

[レポート]メニュー

パッチのステータスレポートを手動で選択して表示できます。[レポート] メニューから、インストールされたパッチ(現在または履歴) およびダウンロードされたパッチを表示するよう指定できます。

- ◆ インストール済みパッチの現在のレポートには、すべての発行済みパッチと、ローカル サーバに現在インストールされているテスト修正が表示されます。
- ◆ インストール済みパッチの履歴レポートには、すべての発行済みパッチ、ローカル サーバに現在インストールされているテスト修正、すでにアンインストールされているパッチの履歴が表示されます。
- ◆ ダウンロード済みパッチのレポートには、現在までにダウンロードされたすべてのパッチが表示されます。

[ヘルプ]メニュー

Arcserve Backup Patch Manager のヘルプ システムにアクセスできます。

製品]ドロップダウン メニュー

パッチの情報を取得する場合に Arcserve Backup のバージョンを選択することができます。

- ◆ Arcserve Backup Patch Manager がステージング サーバとしてインストールされている場合、このドロップダウン メニューには、サポートされているすべての製品 / リリースが表示されます。
- ◆ Arcserve Backup Patch Manager がクライアントとしてインストールされている場合、このドロップダウン メニューには、そのマシンに現在インストールされている製品 / リリースのみが表示されます。

[ステータス]ドロップダウン メニュー

[パッチの更新] / [エラー] 情報 ペインに表示するパッチ情報の種類を選択できます。[パッチの更新] タブが選択された場合、使用可能なステータス オプションは、[すべて]、[利用可能]、[ダウンロード済み]、[インストール済み] です。[エラー] タブが選択された場合、利用可能なオプションは、[すべて]、[ダウンロード時のエラー]、[インストール時のエラー]、[アンインストール時のエラー] です。デフォルトでは、すべてのパッチ情報が表示されます。

[パッチの更新] ペイン

[パッチの更新] タブが選択された場合、対応するステータス(利用可能、ダウンロード済み、インストール済み) に対するパッチ情報が表示されます。発行済みパッチのみがパッチの更新 (Patch Updates) ペインに表示されます(テスト修正は表示されません)。

重要なパッチ、セキュリティパッチ、デバイスパッチとして分類されたパッチは、対応するアイコンで識別されます。パッチ名の上にカーソルを置くと、ツールチップ ウィンドウに追加の情報が表示されます。

パッチ番号が青色で表示されている場合、Arcserve Support Connect の Web サイト上の対応する Readme へのリンクとして機能します。これにより、さらに詳しい情報を入手できます。利用可能なリンク接続がない場合、パッチ番号が黒のテキストで表示されます。

注: ダウンロードまたはインストールするパッチを複数選択するには、Ctrl キーまたは Shift キーの組み合わせを使用します。ただし、複数のパッチの選択は、選択するすべてのパッチのステータス(利用可能、ダウンロード済

み、またはインストール済み) が同じ場合のみ機能します。複数のダウンロード/インストールは、同時ではなく、順番に実行されます(前提条件パッチに基づく)。

「エラー」情報ペイン

「エラー」タブが選択された場合、対応する選択済みパッチのパッチエラー情報が表示されます。

注: 表示されているパッチをダブルクリックすると、問題の詳細な情報をポップアップウィンドウで表示できます。

表示されたパッチをダブルクリックすると、「エラー詳細」ポップアップウィンドウが開き、問題の詳細情報を参照できます。

「アラートおよびメッセージ」ペイン

Arcserve Backup パッチに関連付けられている情報アラートまたはメッセージが表示されます。この表示には、更新の確認が最後に実行された日時や、重要なパッチ、デバイスパッチ、セキュリティパッチが利用可能かどうかなどの情報が含まれます。「アラートおよびメッセージ」ペインは、GUI が開いた場合に自動的に更新されるか、または「更新の確認」ボタンをクリックして手動で更新できます。

- ◆ Arcserve Backup Patch Manager がステージングサーバとしてインストールされている場合、このペインには、サポートされているすべての製品/リリースに対するアラートおよびメッセージが表示されます。
- ◆ Arcserve Backup Patch Manager がクライアントとしてインストールされている場合、このペインには、そのマシンに現在インストールされている製品/リリースに対するアラートおよびメッセージのみが表示されます。

このペインには、インポートされたパッチ情報および自己更新されたステータス(Arcserve Backup Patch Manager の更新されたステータスなど) も表示されます。

注: Arcserve Backup Patch Manager では、Arcserve Backup Patch Manager 用のパッチがインストールされた場合、「アラートおよびメッセージ」ペインに更新情報が表示されます。

パッチアイコン

各ペインにリスト表示されるパッチおよびメッセージには、パッチの種類を

反映したアイコンが付いています。

更新の確認]ボタン

新規および利用可能な Arcserve Backup パッチの確認を手動で開始できます。

ボタンをクリックすると、Arcserve Backup Patch Manager が Arcserve サポートのインターネット サイトに接続し、利用可能なパッチのうちでどれが新しく、まだダウンロードおよびインストールされていないかを判別します。すべての利用可能なパッチ、ダウンロード済みパッチ、インストール済みパッチのリストは、[パッチの更新]ペインに表示されます。

更新の確認]ボタンは常に有効になります。

ダウンロード]ボタン

選択したパッチのダウンロードを手動で開始できます。この [ダウンロード]ボタンは、選択したパッチのステータスが [利用可能]である場合にのみ有効になります。

トリガされたら、Arcserve Backup Patch Manager は、選択したパッチに、ダウンロードが必要な依存パッチが存在するかどうかをまずチェックします。このパッチのダウンロードの依存関係情報は、対応する [依存関係]画面に表示されます。

[ダウンロード]ボタンは、利用可能パッチを選択した場合にのみ有効になります。

[インストール]ボタン

選択したパッチのインストールを手動で開始できます。この [インストール]ボタンは、選択したパッチのステータスが [ダウンロード済み]である場合にのみ有効になります。

トリガされたら、Arcserve Backup Patch Manager は、選択したパッチに、インストールが必要な依存パッチが存在するかどうかをまずチェックします。このパッチのインストールの依存関係情報は、対応する [依存関係]画面に表示されます。

[インストール]ボタンは、ダウンロード済みパッチを選択した場合にのみ有効になります。

[アンインストール]ボタン

選択したパッチのアンインストールを手動で開始できます。この [アンインストール]ボタンは、選択したパッチのステータスが [インストール済み]である場合にのみ有効になります。

トリガされたら、Arcserve Backup Patch Manager は、選択したパッチに、先にアンインストールが必要な依存パッチが存在するかどうかをまずチェックします。インストールされている他のパッチへの依存関係を持たないパッチのみをアンインストールできます。パッチのアンインストールが完了したら、ステータスは [ダウンロード済み] に変更されます。

[アンインストール] ボタンは、インストール済みパッチを選択した場合にのみ有効になります。

ステータス インジケータ

実行されたアクションの現在のステータスと、Patch Manager サービスのステータス(準備完了、停止、使用中)が表示されます。

- ◆ **準備完了** - Patch Manager サービスが実行されており、新しいリクエストを処理できます。
- ◆ **停止** - Patch Manager サービスが停止されています。
- ◆ **使用中** - Patch Manager サービスが、手動 (GUI から) または自動 (スケジューラから) のリクエスト処理に使用されています。

環境設定]ダイアログボックスについての理解

環境設定]ダイアログボックスでは、Arcserve Backup Patch Manager の環境設定を指定または変更できます。一般に、環境設定は、Arcserve Backup Patch Manager のインストールプロセス中に指定され、他の設定が優先されない限り、すべてのジョブに自動的に適用されます。この環境設定]ダイアログボックスで指定した設定は、インストールウィザードを通じて、またはデフォルトで指定されている設定よりも優先されます。さらに、環境設定はグローバルであり、選択したすべての製品に適用されます。

環境設定]ダイアログボックスは、Arcserve Backup Patch Manager GUI の設定]ドロップダウンメニューからアクセスされます。環境設定]ダイアログボックスは、[一般設定]、[電子メール設定]、[プロキシ設定]の3つのタブが設定された3ペインのダイアログボックスです。

環境設定の一般設定についての理解

環境設定]ダイアログボックスの[一般設定]タブでは、このジョブに使用されるダウンロードサーバおよび簡易更新設定を指定できます。

Arcserve サーバ

Arcserve サポート サーバ上の HTTP ロケーション ディレクトリを指定します。Arcserve Backup Patch Manager は、新しい利用可能なパッチをステージングサーバまたはクライアントのいずれかにダウンロードするため、事前設定された HTTP サーバに自動的に接続します。

注： Arcserve Backup Patch Manager では、HTTP による通信のみがサポートされています。

ステージングサーバ

ステージングサーバとして使用されるサーバの HTTP ロケーションアドレスを指定します。

このオプションを選択する場合は、ステージングサーバの場所 (IP アドレスまたはホストサーバ名) も指定する必要があります。すべてのパッチ情報およびダウンロードは、このステージングサーバからクライアントに送信されます。

注： 使用しているローカルホストマシンをステージングサーバとして指定することはできません。ローカルホストマシンをステージングサーバとして使用しようとすると、無効な環境設定となり、ステージングサーバは利用可能なパッチを取得およびダウンロードするために自身に接続できません。

注 Arcserve: ステージングサーバを設定できない場合、サポートサイトに直接接続できます。

パッチを自動的にダウンロードおよびインストールする

Arcserve Backup パッチが利用可能な場合、自動的に確認、ダウンロード、インストールするように指定します。

注： Arcserve Backup パッチの自動ダウンロードおよびインストールは、緊急パッチに対してのみ適用されます。

このオプションを選択する場合は、ドロップダウンメニュー機能を使用して、この機能が実行されるスケジュール (毎日または指定した曜日) および実行の時刻を指定できます。このオプションを選択して日時を指定しなかった場合には、デフォルトで、毎日午後 3 時に自動的にダウンロードおよびインストールを実行するようスケジュールされます。

重要: パッチの自動ダウンロード/インストールのスケジュールされた日時を指定している場合、スケジュールされている他のアクティブな Arcserve Backup ジョブ(バックアップ、リストア、スキャン、マージ、テープコピーなど)と同時に実行されないか、競合しないことを確認してください。一部のパッチのインストールにより、Arcserve Backup サービスがシャットダウンされ、ジョブが中断される可能性があります。

注: このオプションは Arcserve Backup Patch Manager 自身の更新については利用できません。Arcserve Backup Patch Manager については、以下のレジストリスイッチが提供されます。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCserve Backup Patch Manager\PMDownloadFrequency

このレジストリスイッチの値は、Patch Manager サービスの開始時刻以降、Arcserve Backup Patch Manager のパッチをダウンロードおよびインストールするタイミングを示します。

利用可能なパッチがあれば自動的にダウンロードする

パッチが利用可能になってから 1 日以内に自動的に Arcserve Backup パッチをダウンロードするように指定します。

注: このオプションは Arcserve Backup Patch Manager 自身の更新については利用できません。Arcserve Backup Patch Manager については、以下のレジストリスイッチが提供されます。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCserve Backup Patch Manager\PMDownloadFrequency

このレジストリスイッチの値は、Patch Manager サービスの開始時刻以降、Arcserve Backup Patch Manager のパッチをダウンロードおよびインストールするタイミングを示します。

簡易更新の無効化

パッチの自動チェック、ダウンロード、およびインストールの機能をすべて無効にするように指定します。このオプションを選択した場合、Arcserve Backup に対するこれらのパッチ機能は手動でのみ開始できます。

注: このオプションは Arcserve Backup Patch Manager 自身の更新については利用できません。Arcserve Backup Patch Manager については、以下のレジストリスイッチが提供されます。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCserve Backup Patch Manager\PMDownloadFrequency

このレジストリスイッチの値は、Patch Manager サービスの開始時刻以降、Arcserve Backup Patch Manager のパッチをダウンロードおよびインストールするタイミングを示します。

[OK]ボタン

3 つのすべてのタブで指定された設定を保存し、環境設定]ダイアログボックスを閉じます。

リセット ボタン

環境設定]ダイアログボックスの対応するタブで未適用(保存されていない)の設定をリセットします。このボタンは、設定のいずれかに変更が行われ、適用(保存)されていない場合にのみ有効になります。

[キャンセル]ボタン

3 つのすべてのタブで適用(保存)されていないすべての設定をキャンセルおよびリセットし、環境設定]ダイアログボックスを閉じます。

適用]ボタン

対応する環境設定]ダイアログボックスのタブで指定されている設定を適用(保存)します。このボタンがクリックされた場合、[リセット]ボタン(および適用]ボタン)は、設定が変更され、適用(保存)されていない状態になるまで無効になります。

環境設定の電子メール設定についての理解

環境設定]ダイアログ ボックスの [電子メール設定]タブを使用すると、新しいパッチ情報に関する通知を受け取る方法および時期を指定できます。

電子メール通知を受信するために選択可能なオプションは以下のとおりです。

- 更新が存在するとき
- パッチのダウンロードの完了時
- パッチのインストールの完了時

複数のオプションを選択できます。電子メールアドレス(複数も可)も指定する必要があります。SMTP アドレスの指定は任意です。複数の電子メールアドレスを入力するには、各アドレスをセミコロンで区切る必要があります。

電子メール通知の送信条件: 更新が存在するとき]

新しいパッチが利用可能な場合に電子メール通知を受信することを指定します。

電子メール通知の送信条件: ダウンロードの完了時]

パッチのダウンロードが完了した場合に電子メール通知を受信することを指定します。

電子メール通知の送信条件: インストールの完了時]

パッチのインストールが完了した場合に電子メール通知を受信することを指定します。

SMTP サーバ

Arcserve からユーザのサーバに電子メール通知を送信するために使用する SMTP サーバのアドレスを指定します。[SMTP サーバには認証が必要]オプションを選択した場合、SMTP サーバを使用するために必要な認証情報(ユーザ ID とパスワード)を入力することも必要になります。

サービスが指定されていない場合、デフォルトでは、MX (Mail Exchange) を使用して、同じドメイン内のユーザに電子メール通知が配信されます。

注: MX レコードは DNS (Domain Name System) にあるリソースレコードの 1 つで、ドメイン内で SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) を使用し、メール交換サーバによってインターネット電子メールをユーザヘルペティングおよび配信する方法を指定するために使用されます。

環境設定のプロキシ設定についての理解

環境設定]ダイアログボックスの [プロキシ設定] タブを使用すると、パッチをプロキシサーバ経由でダウンロードするかどうかを指定できます。これは、ローカル(ステージング)サーバが HTTP サーバからパッチを取得する際に経由するサーバです。

インターネットに接続するためにプロキシサーバを使用しないでください。

パッチ情報を取得するために Arcserve サポートのインターネットサイトに接続する際にプロキシサーバを使用しないことを指定します。代わりに (Arcserve Backup がインストールされている) クライアントマシンが、パッチ情報を取得するために Arcserve のテクニカルサポートのインターネットサイトに直接接続します。これはデフォルトの設定です。

プロキシサーバ設定を自動的に検出

事前設定済みのプロキシサーバ設定を自動的に検出および使用するように指定します。

(プロキシサーバ設定は、Internet Explorer/プロパティ/接続/LAN 設定ダイアログボックスから設定および参照できます)

プロキシ設定を使用

指定されたプロキシサーバ設定を使用するように指定します。このオプションを選択すると、プロキシサーバの IP アドレス(またはマシン名)およびプロキシサーバがインターネット接続する際に使用される、対応するポート番号も指定する必要があります。

プロキシサーバに認証が必要

プロキシサーバを使用するために認証情報(ユーザ ID とパスワード)が必要となることを指定します。パスワードの確認も要求されます。

利用可能なパッチを手動で確認

Arcserve Backup Patch Manager GUI を使用すると、まだダウンロードされていない利用可能なパッチのチェックを手動で実行できます。

利用可能なパッチの確認

1. Arcserve Backup Patch Manager GUI (Programs/Arcserve/Arcserve Backup Patch Manager/Patch Manager) を起動します。

Arcserve Backup Patch Manager GUI が表示され、ダウンロードできるすべてのパッチのリストが表示されます。

2. [更新の確認]をクリックし、すでにリスト表示されていない利用可能なパッチのチェックを手動で開始します。

Arcserve Backup Patch Manager は、Arcserve サポート サイトに接続し、利用可能なすべての Arcserve Backup パッチの比較チェックを実行して、どの利用可能なパッチが新しく、まだダウンロードされていないかを判断します。

注： Patch Manager に表示されている特定の Arcserve Backup パッチに関する追加情報を取得するには、Arcserve テクニカル サポートまでお問い合わせください。

- ◆ パッチが以前にダウンロードされていないと判断された場合、Arcserve Backup Patch Manager は、そのパッチを利用可能なパッチとして指定します。
- ◆ パッチがすでにダウンロードされていると判断された場合、Arcserve Backup Patch Manager は、物理的な場所にパッチがあるかどうかを確認します。
 - 物理ファイルがなく、インストールされていない場合は、そのパッチが新規または利用可能なパッチとして指定されます。
 - パッチファイルが(正しいチェックサムおよびファイル名で)物理的なロケーションに存在する場合、そのパッチはすでにダウンロードされたパッチとして指定されます。
 - パッチファイルが存在し、パッチのファイル名とチェックサムの値が同じファイルに一致しない場合、そのパッチは利用可能なパッチとして指定されます。

手動によるパッチのダウンロード

利用可能なパッチは、Arcserve Backup Patch Manager GUI を使用して手動でダウンロードできます。

パッチのダウンロード

1. Arcserve Backup Patch Manager GUI (Programs/APM/Arcserve Backup Patch Manager/Patch Manager) を起動します。

Arcserve Backup Patch Manager GUI が表示され、ダウンロードできるすべてのパッチのリストが表示されます。[パッチの更新] ペインには、リストされているすべてのパッチのパッチ ID、説明、日付、サイズ(KB)、ステータスが表示されます。

注: Patch Manager に表示されている特定の Arcserve Backup パッチに関する追加情報を取得するには、Arcserve テクニカル サポートまでお問い合わせください。

2. ダウンロードするパッチを選択し、[ダウンロード] をクリックします。

注: ダウンロードまたはインストールするパッチを複数選択するには、Ctrl キーまたは Shift キーの組み合わせを使用します。ただし、複数のパッチの選択は、選択するすべてのパッチのステータス(利用可能、ダウンロード済み、またはインストール済み) が同じ場合のみ機能します。複数のダウンロード/インストールは、同時ではなく、順番に実行されます(前提条件パッチに基づく) 。

Arcserve Backup Patch Manager は、ダウンロードが必要な依存パッチが、選択したパッチにないかどうかをまずチェックします。ダウンロード時に依存関係をチェックする目的は、利用可能なすべての依存パッチがダウンロード済みまたはインストール済みであることを確認することです(ダウンロードするパッチが選択されると、その依存パッチが選択されていない場合でも、Arcserve Backup Patch Manager は自動的にすべての依存パッチを選択してダウンロードします) 。

[依存関係] 画面に、ダウンロードするように選択したパッチとそれらの依存パッチがリストされます。

3. [今すぐダウンロード] をクリックし、利用可能なパッチをダウンロードします。

[ダウンロード] 画面に、パッチのダウンロード ステータスが表示されます。

注: デフォルトでは、次のフォルダにパッチがダウンロードされます: X:\Program Files (x86)\ca\SharedComponents\PatchesRoot

4. [OK]をクリックして [ダウンロード]画面 を閉じます。

ダウンロード プロセス中に、選択しているパッチをダブルクリックすると、現在のステータス(進捗率)が表示されます。

ダウンロード プロセスが完了すると、パッチ/更新のダウンロード レポートが更新され、[パッチの更新]ペインのパッチのステータスが「ダウンロード済み」になります。ダウンロード済みパッチは、指定した Patch Manager のダウンロード フォルダに保存されます。これらのパッチは、インストール後も削除されません。

パッチのダウンロードが完了すると、電子メール通知が送信されます(設定している場合)。

5. 以下のいずれかの状況が生じると、パッチのダウンロードは失敗することがあります。

- ◆ 「利用可能」と表示されているパッチが、ステージング サーバに存在しない。
- ◆ ダウンロード フォルダに十分な空き容量がない。
- ◆ ネットワークの障害
- ◆ ボリューム クォータの障害

ダウンロードが失敗した場合は、[エラー]タブおよび APMLog.log ファイルを確認して、考えられる原因と詳細を調べます。

手動によるパッチのインストール

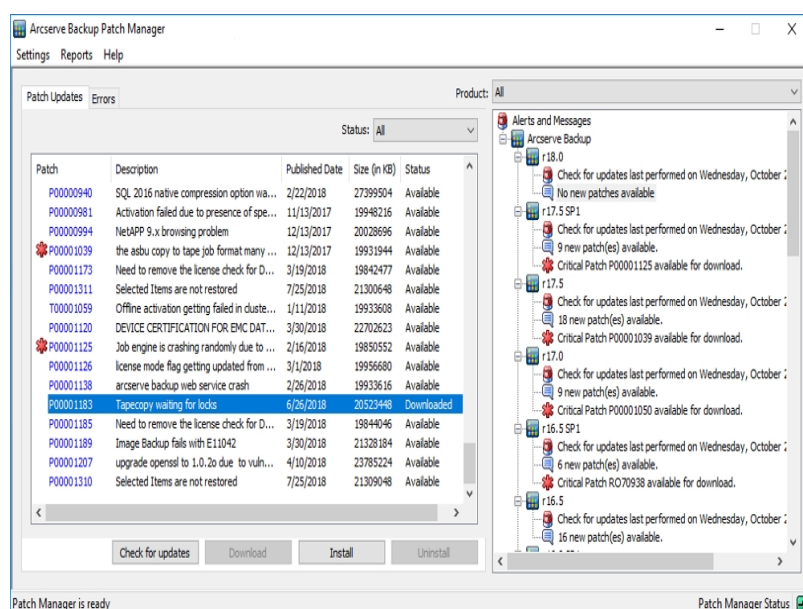
Arcserve Backup Patch Manager GUI を使用して、すでにダウンロードされたパッチを手動でインストールすることができます。

パッチのインストール

1. Arcserve Backup Patch Manager GUI (Programs/Arcserve/Arcserve Backup Patch Manager/Patch Manager) を起動します。

Arcserve Backup Patch Manager GUI に、インストールできるすべてのダウンロード済みパッチのリストが表示されます。[パッチの更新] ペインには、リストされているすべてのパッチのパッチ ID、説明、日付、サイズ(KB)、ステータスが表示されます。

注: Patch Manager に表示されている特定の Arcserve Backup パッチに関する追加情報を取得するには、Arcserve テクニカル サポートまでお問い合わせください。



2. インストールするパッチを選択し、[インストール]をクリックします。

注: ダウンロードまたはインストールするパッチを複数選択するには、Ctrl キーまたは Shift キーの組み合わせを使用します。ただし、複数のパッチの選択は、選択するすべてのパッチのステータス(利用可能、ダウンロード済み、またはインストール済み) が同じ場合のみ機能します。複数のダウンロード/インストールは、同時ではなく、順番に実行されます(前提条件パッチに基づく)。

Arcserve Backup Patch Manager は、インストールが必要な依存パッチが、選択したパッチにないかどうかをまずチェックします。パッチのインストール時に依存関係をチェックする目的は、利用可能なすべての依存パッチがインストールされるかすでにダウンロード済みであることを確認することです。

依存関係]画面が表示され、インストールするように選択したパッチと、それらの依存パッチがリストされます。

- ◆ すべての依存パッチがすでにダウンロードおよびインストールされている場合、選択したパッチのインストールプロセスは続行します。
- ◆ まだダウンロードされていない依存パッチがある場合、エラーメッセージが表示され、インストールプロセスを続行するには依存パッチが必要であることが示されます。

3. [今すぐインストール]をクリックし、パッチのインストールを続行します。

[インストール]画面が表示され、パッチのインストールステータスが示されます。

4. [OK]をクリックして [インストール]画面を閉じます。

インストールプロセス中に、選択されたパッチをダブルクリックすると、現在のステータス(進捗率)が表示されます。

インストールプロセスが完了すると、パッチ/更新のインストールレポートが更新され、[パッチの更新]ペインのパッチのステータスが「インストール済み」になります。ダウンロード済みパッチは、指定した Patch Manager のダウンロード フォルダに保存されます。これらのパッチは、インストール後も削除されません。

5. パッチのインストールが完了すると、電子メール通知が送信されます(設定している場合)。
6. パッチのインストールを有効にするために再起動が必要な場合は、すぐに再起動するかどうかの指定が求められます。
7. パッチのインストールが失敗した場合は、[エラー]タブおよび APMLog.log ファイルを確認して、考えられる原因と詳細を調べます。

手動によるパッチのアンインストール

Arcserve Backup Patch Manager GUI を使用して、すでにインストールされたパッチを手動でアンインストールすることができます。パッチのアンインストールは、GUI から手動でのみトリガできます(パッチのアンインストールの自動スケジューリングはサポートされていません)。さらに、アンインストールするパッチは一度に1つしか選択できません(アンインストールに対して複数のパッチ選択はサポートされていません)。

パッチのアンインストール

1. Arcserve Backup Patch Manager GUI (Programs/Arcserve/Arcserve Backup Patch Manager/Patch Manager) を起動します。

Arcserve Backup Patch Manager GUI が表示され、アンインストールできるすべてのインストール済みパッチがリスト表示されます。

2. アンインストールするパッチを選択し、[アンインストール]をクリックします。

Arcserve Backup Patch Manager は、アウンインストールが必要な依存パッチが、選択したパッチにないかどうかをまずチェックします。

[依存関係]画面が表示され、アンインストールするように選択したパッチと、それらの依存パッチがリストされます。

- ◆ すべての依存パッチがすでにアンインストールされている場合、選択したパッチのアンインストールプロセスは続行します。
- ◆ まだアンインストールされていない依存パッチがある場合、エラーメッセージが表示され、依存パッチがまだインストールされており、アンインストールプロセスを続行できないことが示されます。

3. [今すぐアンインストール]をクリックし、パッチのアンインストールを続行します。

[アンインストール]画面が表示され、パッチのアンインストールステータスが示されます。

注: [今すぐアンインストール]ボタンをクリックした後、[アンインストール]画面に表示されているパッチを少なくとも1つ選択しなかった場合、ポップアップウィンドウが表示され、パッチを選択してからアンインストールを試行するように求められます。

4. [OK]をクリックして [アンインストール]画面を閉じます。

アンインストールプロセスが完了したら、パッチエントリが現在インストールされているパッチ/更新のレポートから削除され、インストールされたパッチ/更新の履歴レ

ポートに「アンインストール済み」ステータスで追加されます。[パッチの更新]ペインでパッチのステータスは「ダウンロード済み」として示されます。

重要: Arcserve Backup Patch Manager は、パッチがインストールされているかどうかを特定するための履歴ファイルを保持します。そのため、パッチのステータスを正しく追跡するには、Arcserve Backup Patch Manager のみを使用してパッチをアンインストールする必要があります。

5. パッチのアンインストールの失敗が発生した場合、[エラー]タブで、考えられる原因を確認し、APMlog.log で詳細を確認する必要があります。

パッチの自動ダウンロードとインストール

Arcserve Backup Patch Manager GUI を使用して、新しいパッチのチェック、Arcserve サポート のインターネット サイトからのパッチのダウンロード、ダウンロード済みパッチのシステムへのインストールを自動で実行できます。(パッチの自動アンインストールはサポートされておらず、GUI から手動でのみトリガできます。)

注: Arcserve Backup パッチの自動ダウンロードおよびインストールは、緊急パッチに対してのみ適用されます。

注: Arcserve Backup Patch Manager のパッチはすべて重要なパッチとみなされます。

Arcserve Backup Patch Manager でこれらのタスクを自動的に実行するプロセスは、手動での実行と同じですが、すべてのタスクがあらかじめ設定された日時にトリガされるという点が異なります。これらの自動機能の設定は、Arcserve Backup Patch Manager のインストールプロセス中に指定するか、Arcserve Backup Patch Manager のインストール後に **環境設定** ダイアログボックスで指定できます。**環境設定** ダイアログボックスに関する詳細については、「[環境設定](#) **ダイアログボックスについての理解**」を参照してください。

ただし、パッチの自動ダウンロードおよびインストールプロセスでは、パッチが Arcserve Backup エージェント用で、エージェントがターゲットマシンにインストールされていない場合は、インストールエラーが発生します。たとえば、Arcserve Backup Patch Manager でパッチの自動ダウンロードおよびインストールが設定されていて、Arcserve サポート サイトで Agent for Oracle の新しいパッチが利用可能になった場合、Arcserve Backup Patch Manager は自動的にこの Oracle パッチを対象マシンにダウンロードおよびインストールしようとします。Oracle 関連コンポーネントがそのターゲットマシンにインストールされていない場合、インストールの失敗に関するエラーが報告されます。

Arcserve Backup Patch Manager がパッチを自動的にダウンロードおよびインストールするように設定されている場合、新しいパッチが利用可能になると、次のスケジュールを続行するか延期するかを選択するように求められます。5 分以内に応答しない場合、ジョブは続行されます。

パッチの自動ダウンロードおよびインストールが完了すると、電子メール通知が送信されます(設定している場合)。

パッチのインストールを有効にするために再起動が必要な場合、以下が発生します。

- 電子メール通知が有効な場合、電子メールでこの状況が通知されます。パッチのインストール後にパッチが反映されるには、マシンを手動で再起動する必要があります。

- 電子メール通知が有効でない場合、APMLog.log でパッチのステータスを確認する必要があります。再起動が必要な場合、このパッチでマシンの再起動が必要とされることを通知するメッセージがログに含まれます。パッチのインストール後にパッチが反映されるには、マシンを手動で再起動する必要があります。

第4章: Arcserve Backup Patch Manager のトラブルシューティング

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[Patch Manager のトラブルシューティング](#)

[トラブルシューティングの概要](#)

[Patch Manager からパッチをダウンロードするための前提条件](#)

Patch Manager のトラブルシューティング

このセクションでは、Arcserve Backup Patch Manager の一般的な問題、その原因および解決策について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[ネットワークエラーのトラブルシューティング](#)

[サービスエラーのトラブルシューティング](#)

[環境設定エラーのトラブルシューティング](#)

[再試行のタイムアウト](#)

[パッチダウンロードの失敗](#)

[更新の確認の失敗](#)

[パッチインストールの失敗](#)

[電子メール通知が受信されない](#)

[インストール中にクライアントまたはステージングサーバのオプションが無効になる](#)

[「パッチを自動的にダウンロードおよびインストールする」オプションを選択しているのに、パッチインストールに失敗する](#)

[Arcserve Backup Patch Manager によって Arcserve Backup ジョブが失敗する](#)

[パッチのダウンロード中に無効なシグネチャエラーが報告される](#)

[更新の確認が繰り返し失敗する](#)

[Arcserve Backup Patch Manager が、ステージングサーバとしてインストールされているか、クライアントとしてインストールされているかわからない](#)

[Arcserve Backup Patch Manager が自動的に自己更新を実行しているかどうかかわからない](#)

[以前インストールしたパッチが Arcserve Backup Patch Manager にリスト表示される](#)

[インストール前に必要なパッチの説明](#)

[Patch Manager のアップグレード中に環境設定がリストアされない](#)

[Patch Manager のアップグレード中にパッチ情報がリストアされない](#)

ネットワークエラーのトラブルシューティング

HTTP サービス(ステージング サーバ) がダウンしているか使用できません。

- ◆ HTTP サービスを開始します。
- ◆ 詳細を、APMLog.log ファイルで確認します。

ネットワークに接続されていません。

- ◆ ネットワークに接続します。
- ◆ 詳細を、APMLog.log ファイルで確認します。

接続がタイムアウトしました。

- ◆ ネットワークへの接続を再試行します。
- ◆ 必要な HTTP サービスが開始され実行中であることを確認します。
- ◆ 詳細を、APMLog.log ファイルで確認します。

サービス エラーのトラブルシューティング

Arcserve Backup Patch Manager Service が開始されていない。

- ◆ Arcserve Backup Patch Manager サービスを開始します。
- ◆ 詳細を、APMLog.log ファイルで確認します。

Arcserve Backup Patch Manager Service がインストールされていない。

- ◆ Arcserve Backup Patch Manager サービスをインストールして開始します。
- ◆ APMLog.log ファイルで詳細を確認します。

環境設定エラーのトラブルシューティング

APMSettings.Ini ファイルが見つからないか破損しています。

- ◆ 製品を再インストールします。
- ◆ 詳細を、APMLog.log ファイルで確認します。

注： The APMSettings.Ini file is located in the following directory: C:\Program Files (x86)\ca\SharedComponents\APM\Patch Manager.

APMclient.Xml ファイルが見つからないか破損しています。

- ◆ 製品を再インストールします。
- ◆ APMLog.log ファイルで詳細を確認します。

注： APMclient.Xml ファイルは次のディレクトリにあります。C:\Program Files (x86)\ca\SharedComponents\APM\Patch Manager

AlreadyDownloadedPatchinfo.Xml ファイルが見つからないか破損しています。

- ◆ 製品を再インストールします。
- ◆ 詳細を、APMLog.log ファイルで確認します。

注： AlreadyDownloadedPatchinfo.Xml ファイルは、次のディレクトリにあります。
C:\Program Files (x86)\ca\SharedComponents\APM\Patch Manager\Arcserve Backup
または C:\Program Files (x86)\ca\SharedComponents\APM\Patch Manager\Arcserve Backup Patch Manager

再試行のタイムアウト

- APMSettings.INI ファイルの再試行オプションの値を変更します。

[DOWNLOADCONFIG]

RetryCount=

デフォルト値は 3 回です。指定できる範囲は、1 ～ 5 回です。

TimeOutForEachTry=

分単位で指定されます。デフォルト値は 60 分です。

PacketCount=

デフォルトのパケットの数は 16 で、各パケットサイズは 1 KB です。
指定できるパケット数の範囲は、4 ～ 64 です。

- 詳細を、APMLog.log ファイルで確認します。

パッチ ダウンロード の失敗

ネットワークエラー

「[ネットワークエラーのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

サービスエラー

「[サービスエラーのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

環境設定エラー

「[環境設定エラーのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

ディスク容量の不足

- ◆ ディスク空き容量を増やします。
- ◆ ダウンロード ロケーションを別のドライブに設定し、既存の "PatchesRoot" フォルダを新しく設定した場所にコピーします。

注：デフォルトでは、次のフォルダにパッチがダウンロードされます：X:\Program Files (x86)\ca\SharedComponents\PatchesRoot

以下のレジストリキーを新しいロケーションに更新します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCserve Backup Patch Manager\PATCHESROOT

- ◆ 詳細を、APMLog.log ファイルで確認します。

更新の確認の失敗

詳細を、APMLog.log ファイルで確認します。

ネットワークエラー

「[ネットワークエラーのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

サービスエラー

「[サービスエラーのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

環境設定エラー

「[環境設定エラーのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

パッチ インストールの失敗

サービス エラー

「[サービス エラーのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

電子メール通知が受信されない

- 適切な電子メール通知の環境設定オプションが適用されていることを確認します。詳細については、「[環境設定の電子メール設定についての理解](#)」を参照してください。
- SMTP サーバ名 および他のフィールドに提供された認証情報が正しいことを確認します。

注: *smtp.office365.com* および *smtp.live.com* 用にデフォルト以外のポートを使用している場合、以下のパスに移動して、*APMSettings.ini* ファイルのポート番号を手動で変更します。

C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\APM\Patch Manager

- Patch Manager ホームフォルダの SMTP.LOG で詳細を確認します。
- 電子メール ID を確認します。
- 問題が解決しない場合は、Arcserve [サポート](#) にアクセスして、オンラインのテクニカルサポートを得るか、またはサポートの所在地、主な受付時間、電話番号をご確認ください。

インストール中にクライアントまたはステージング サーバのオプションが無効になる

- [クライアント]オプションは、Arcserve Backup for Windows r18、または Windows プラットフォーム オプションの 1 つがシステムにインストールされている場合にのみ、有効になります。
- ステージング サーバオプションは、Microsoft インターネット インフォメーション サービス(IIS) 6.0 以降が HTTP サイトに対してインストールおよび設定されている場合のみ有効になります。

「パッチを自動的にダウンロードおよびインストールする」オプションを選択しているのに、パッチ インストールに失敗する

パッチを自動的にダウンロードおよびインストールするオプションが選択されている場合、Arcserve Backup Patch Manager はダウンロード済みのすべてのパッチのインストールを試みます。1 つ以上のパッチが特定のコンポーネントのためのもので、そのコンポーネントがシステムにインストールされていない場合は、パッチ インストールは失敗し、失敗のステータスを返します。

Arcserve Backup Patch Manager によって Arcserve Backup ジョブが失敗する

重要: パッチの自動ダウンロード/インストールのスケジュールされた日時を指定している場合、スケジュールされている他のアクティブな Arcserve Backup ジョブ(バックアップ、リストア、スキャン、マージ、テープコピーなど)と同時に実行されないか、競合しないことを確認してください。一部のパッチのインストールにより、Arcserve Backup サービスがシャットダウンされ、ジョブが中断される可能性があります。

- Arcserve Backup ジョブのスケジュールが Arcserve Backup Patch Manager の自動インストールのスケジュールと競合していないことを確認します。Arcserve Backup Patch Manager では、パッチのダウンロードおよびインストールの自動スケジュール時刻に、ほかにアクティブなジョブや実行中の Arcserve Backup 処理があるかどうかをチェックしません。
- 問題が解決しない場合は、Arcserve [サポート](#) にアクセスして、オンラインのテクニカルサポートを得るか、またはサポートの所在地、主な受付時間、電話番号をご確認ください。

パッチのダウンロード中に無効なシグネチャエラーが報告される

選択したパッチがまだ Arcserve サポート サーバにアップロードされていません。
Arcserve Backup Patch Manager は、受信したパッチが本物であることを確かめるためにチェックします。特定のパッチのチェックが失敗した場合は、そのモジュールは削除され、ダウンロードが失敗し、無効なシグネチャが検出されたことが原因として報告されます。

更新の確認が繰り返し失敗する

- パッチのダウンロード用に選択したサーバが正しく設定されていることを確認します。詳細については、「[環境設定の一般設定についての理解](#)」を参照してください。
- Arcserve サポート サーバから直接パッチをダウンロードするオプションを選択している場合は、Patch Manager のログ(APMLog.log) を参照します。
- 選択したオプションが、ステージング サーバからパッチをダウンロードする場合、そのステージング サーバでデフォルトの Web サイトを参照できることを確認します。

デフォルトの Web サイトを参照できない場合は、IIS のインストールが未完了または不適切であることが原因である可能性があります。IIS が正常にインストールされていることを確認します。

- Arcserve Backup Patch Manager がプロキシ設定を使用するように設定されている場合、プロキシ認証情報が正しく入力されていることを確認します。詳細については、「[環境設定のプロキシ設定についての理解](#)」を参照してください。
- 選択したオプションが、ステージング サーバからパッチをダウンロードする場合、ステージング サーバが適切なポートを介して通信していることを確認します。ポート番号が正しくない場合、エージェント側で以下の手順に従います。

1. APMSettings.ini ファイルを開きます。

注：APMSettings.Ini ファイルは以下のディレクトリにあります。

C:\Program Files (x86)\ca\SharedComponents\APM\Patch Manager

2. "[DownloadServer]" の見出しの下で、ステージング サーバが使用しているポート番号に一致するようにポート値を変更します。

- 問題が解決しない場合は、Arcserve [サポート](#) にアクセスして、オンラインのテクニカルサポートを得るか、またはサポートの所在地、主な受付時間、電話番号をご確認ください。

Arcserve Backup Patch Manager が、ステージングサーバとしてインストールされているか、クライアントとしてインストールされているかわからない

Arcserve Backup Patch Manager GUI から、ヘルプメニューにアクセスし、[バージョン情報]を選択します。

「This is a Staging Server」というメッセージが表示されれば、Arcserve Backup Patch Manager はステージングサーバとしてインストールされています。このメッセージが表示されなければ、クライアントとしてインストールされていることになります。

Arcserve Backup Patch Manager が自動的に自己更新を実行しているかどうか分からない

Arcserve Backup Patch Manager GUI から、ヘルプメニューにアクセスし、[バージョン情報]を選択します。

現在インストールされているビルド番号を確認して、Arcserve Backup Patch Manager が更新されているかどうかを判断します。

以前インストールしたパッチが Arcserve Backup Patch Manager にリスト表示される

パッチを手動でインストールし、次に Arcserve Backup Patch Manager をインストールした場合、以前にインストールされたすべての発行済みパッチが、Patch Manager GUI にリスト表示されます。

インストール前に必要なパッチの説明

インストールの前に、特定のパッチに関して詳細な説明または追加の情報が必要な場合は、Arcserve [テクニカル サポート](#) のオンライン サポートにお問い合わせください。

Patch Manager のアップグレード中に環境設定がリストアされない

Arcserve Backup Patch Manager のアップグレード中に環境設定がリストアされなかった場合、以下の手順に従って、手動で APMsettings.INI と PU.dat のファイルを元の場所にコピー(リストア)できます。

1. 以下の場所から APMsettings.INI と PU.dat のファイルをコピーします。

"ProgramFiles\CA\SharedComponents\PatchesRoot\capmconfig.F86757112A4542da-B576BC34469DBDD1"

2. コピーされたこれらの APMsettings.INI と PU.dat のファイルを以下の場所にリストアします。

"ProgramFiles\CA\SharedComponents\PatchesRoot\PatchManager"

注：64 ビット マシンでは、「ProgramFiles」は「Program Files (x86)」に置き換えられます。

Patch Manager のアップグレード中にパッチ情報がリストアされない

Arcserve Backup Patch Manager のアップグレード中に、パッチ情報がリストアされなかった場合、以下の手順に従って、手動でパッチ情報を元の場所にコピー(リストア)できます。

1. 以下の場所から AlreadyDownloadedPatchInfo.xml ファイルをコピーします。
`"ProgramFiles\CA\SharedComponents\PatchesRoot\capmconfig.F86757112A4542da-B576BC34469DBDD1"`
2. コピーされたこの AlreadyDownloadedPatchInfo.xml ファイルを以下の場所にリストアします。
`"ProgramFiles\CA\SharedComponents\PatchesRoot\PatchManager\CA ARCserve Backup"`
3. 「capm.F86757112A4542daB576BC34469DBDD1」の名前を以下のレジストリキーから解決されるパスと同じパス内にある「capm」に変更します。

`「HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCserve Backup Patch Manager\PATCHESROOT」`

例：「HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCserve Backup Patch Manager\PATCHESROOT」のレジストリキー値が、
「C:\ProgramFiles\CA\SharedComponents\PatchesRoot」である場合は、「C:\Program Files\CA\SharedComponents\capm.F86757112A4542daB576BC34469DBDD1」から
「C:\Program Files\CA\SharedComponents\PatchesRoot」にフォルダの名前を変更します。

注：64 ビット マシンでは、「ProgramFiles」は「Program Files (x86)」に置き換えられます。

トラブルシューティングの概要

問題が検出されると、問題の確認、トラブルシューティングや解決に役立つメッセージが、Arcserve Backup Patch Manager によって生成されます。これらのメッセージは、Patch Manager のアクティビティ ログ(APMLog.log) または Patch Manager UI ログ(CAPMUILog.log) に含まれ、次の場所で参照できます: *C:\Program Files\CA\SharedComponents\APM\Patch Manager*

正しくないアクションが試行された場合、Arcserve Backup Patch Manager は通常、問題の特定や迅速な解決に役立つポップアップメッセージを表示します。

さらに、Arcserve Backup Patch Manager GUI 上の [エラー] ペインでは、対応するパッチに関連するエラーも参照できます。

Patch Manager からパッチをダウンロードするための前提条件

APMClient.xml ファイルの編集

1. "%ProgramFiles(x86)%\CA\SharedComponents\APM\PatchManager" (64 ビット マシン) または "%ProgramFiles%\CA\SharedComponents\APM\Patch Manager" (32 ビット マシン) に移動します。
2. APMClient.xml ファイルを開きます。

以下は、最新の APMClient.xml ファイルを表します。

3. APMClient.xml ファイル内のテキストの強調表示されている部分を以下のように変更します。
 - a. 製品が "Arcserve Backup" の場合、pathonsource タグのパスを置き換えます。

既存のコード:

```
<pathonsource>/capm/PatchesRoot/arcserve/ </pathonsource>
```

新しいコード:

```
<pathonsource>/PatchesRoot/arcserve/ </pathonsource>
```

- b. 製品が "Arcserve Backup Patch Manager" の場合、pathonsource タグのパスを置き換えます。

既存のコード:

```
<pathonsource>/capm/PatchesRoot/patchmanager/ </pathonsource>
```

新しいコード:

```
<pathonsource>/PatchesRoot/patchmanager/ </pathonsource>
```

- c. <ServerName> タグでアドレスを置き換えます。

既存のコード:

```
<Server Name> rmdmdownloads.ca.com </Server Name>
```

新しいコード:

```
<Server Name>downloads.arcserve.com</Server Name>
```

- d. source タグ内のアドレスを置き換えます。

既存のコード:

```
<source> rmdmdownloads.ca.com </source>
```

新しいコード:

```
<source>downloads.arcserve.com</source>
```

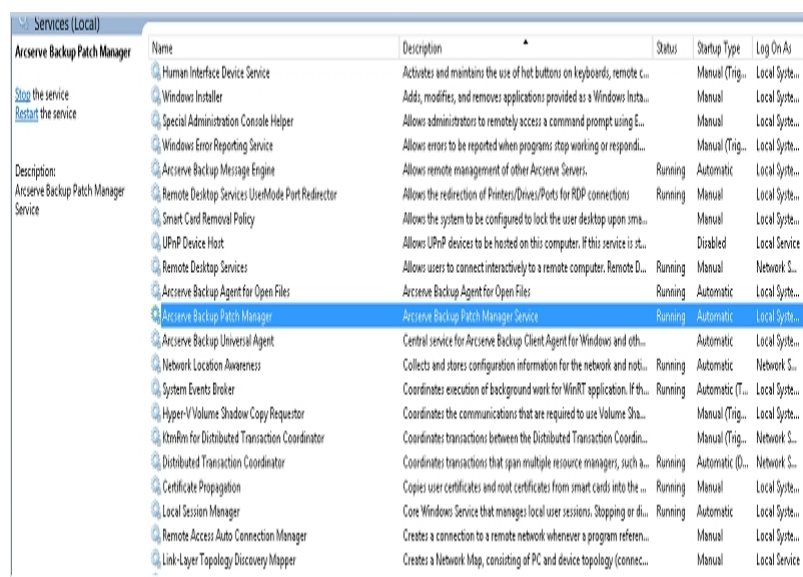
- e. 変更を実行した後に、Patch Manager を再起動します。

以下は、編集された APMClient.xml ファイルを表します。

すべての Patch Manager クライアントとステージング サーバ上の Commandbase.dll ファイルの置換

APMClient.xml ファイルを編集後に、以下の手順に従います。

1. 以下のリンクをクリックし、新しい CommandBase.dll ファイルをダウンロードします。
<http://arcserve.vo.llnwd.net/v1/PatchesRoot/arcserve/PatchManager.zip>
2. PatchManager.zip を解凍し、コンピュータ上で使用している Arcserve Backup のバージョンのフォルダに移動します。
3. 実行している Arcserve バージョンの適切なフォルダから、CommandBase.dll.USA の名前を CommandBase.dll に変更します。
4. Windows サービスから "Arcserve Backup Patch Manager" サービスを停止します。



Name	Description	Status	Startup Type	Log On As
Arcserve Backup Patch Manager	Arcserve Backup Patch Manager Service	Running	Automatic	Local System
Human Interface Device Service	Activates and maintains the use of hot buttons on keyboards, remote c...	Manual (Trig...	Local System	
Windows Installer	Adds, modifies, and removes applications provided as a Windows Insta...	Manual	Local System	
Special Administration Console Helper	Allows administrators to remotely access a command prompt using E...	Manual	Local System	
Windows Error Reporting Service	Allows errors to be reported when programs stop working or respondi...	Manual (Trig...	Local System	
Arcserve Backup Message Engine	Allows remote management of other Arcserve Servers.	Running	Automatic	Local System
Remote Desktop Services UserMode Port Redirector	Allows the redirection of Printers/Drives/Ports for RDP connections	Running	Manual	Local System
Smart Card Removal Policy	Allows the system to be configured to lock the user desktop upon sma...	Manual	Local System	
UPnP Device Host	Allows UPnP devices to be hosted on this computer. If this service is st...	Disabled	Local Service	
Remote Desktop Services	Allows users to connect interactively to a remote computer. Remote D...	Running	Manual	Network S...
Arcserve Backup Agent for Open Files	Arcserve Backup Agent for Open Files	Running	Automatic	Local System
Arcserve Backup Patch Manager	Arcserve Backup Patch Manager Service	Running	Automatic	Local System
Arcserve Backup Universal Agent	Central service for Arcserve Backup Client Agent for Windows and oth...	Automatic	Local System	
Network Location Awareness	Collects and stores configuration information for the network and rob...	Running	Automatic	Network S...
System Events Broker	Coordinates execution of background work for WinRT application. If th...	Running	Automatic (T...	Local System
Hyper-V Volume Shadow Copy Requestor	Coordinates the communications that are required to use Volume Sha...	Manual (Trig...	Local System	
WdNtfs for Distributed Transaction Coordinator	Coordinates transactions between the Distributed Transaction Coordin...	Manual (Trig...	Network S...	
Distributed Transaction Coordinator	Coordinates transactions that span multiple resource managers, such a...	Running	Automatic (D...	Network S...
Certificate Propagation	Copies user certificates and root certificates from smart cards into the ...	Running	Manual	Local System
Local Session Manager	Core Windows Service that manages local user sessions. Stopping or di...	Running	Automatic	Local System
Remote Access Auto Connection Manager	Creates a connection to a remote network whenever a program referen...	Manual	Local System	
Link-Local Topology Discovery Mapper	Creates a Network Map, consisting of PC and device topology (connec...	Manual	Local Service	

5. 古い CommandBase.dll ファイルを、手順 3 で名前を変更した新しい CommandBase.dll ファイルで置き換えます。場所は、“%ProgramFiles (x86)%\CA\SharedComponents\APM\Patch Manager” (64 ビット マシン) または “%ProgramFiles%\CA\SharedComponents\APM\Patch Manager” (32 ビット マシン)

です。

6. "Arcserve Backup Patch Manager" サービスを再開します。

ステージング サーバの設定

1. [コントロールパネル]- [管理ツール]に移動し、ステージング サーバの IIS マネージャを開き、デフォルトの Web サイトを参照します。
2. デフォルト Web サイト上で右クリックし、[仮想ディレクトリの追加]をクリックして仮想ディレクトリを追加します。
3. エイリアスのテキスト フィールドに、「PatchesRoot」と入力し、物理パスを
"C:\Program Files (x86)\CA\SharedComponents\PatchesRoot" (64 ビット マシン) または
"C:\Program Files \CA\SharedComponents\PatchesRoot" (32 ビット マシン) と
して選択します。

第5章: 用語集

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

チェックサム	88
クライアント	88
重要なパッチ	88
累積パッチ	88
デバイスパッチ	88
簡易更新	88
個別のパッチ	88
パッチ	89
前提条件パッチ	89
パッチの発行	89
セキュリティパッチ	89
SP	89
ステージングサーバ	89
スーパーシードパッチ	90
テストパッチ	90

チェックサム

チェックサムは、エラーを検出することにより、データの整合性を保護するために使用される冗長性チェックです。チェックサムは、保存または送信されたデータの計算値です。データがストレージから取得されるか、送信の一端で受信されたときに、新しいチェックサム値が計算され、既存のチェックサム値と比較されます。一致しない場合はエラーを示します。

クライアント

クライアントは、1 つまたは複数のマシン/サーバに展開され、指定されたステージングサーバまたは Arcserve サーバのいずれかと通信します。

重要なパッチ

重要なパッチは、影響が大きく、広範囲にわたる問題に対する修正プログラムです。重要なパッチは、ほとんどの環境における製品の動作に不可欠なソフトウェアの修正です。ほとんどの場合、ハイパーパッチと同じです。

累積パッチ

累積パッチは、複数の製品エレメントやコンポーネントに影響する複数の個別パッチを1つのパッチに統合し、発行して、既存の環境に適用するようにまとめて提供する方法です。各累積パッチは累積され、次に提供される累積パッチまたはサービスパックにまとめて置き換えられます。

デバイスパッチ

デバイスパッチは、Arcserve Backup と共に使用する新たなデバイスをサポートするためにリリースされる修正です。

簡易更新

簡易更新は、Arcserve が発行するすべての重要なパッチのダウンロードおよびインストールプロセスを自動実行するための Patch Manager の環境設定セクションです。

個別のパッチ

個別のパッチは、確認済みの問題に対する修正で、元の確認済みテストパッチで対応された製品の不具合のみに対応します。個別のパッチは、次に提供され

る累積パッチまたはサービスパックにまとめて置き換えられます。

パッチ

パッチは、製品の機能またはセキュリティを修正/拡張するために作成されたファイルの小さなセットです。

前提条件パッチ

前提条件パッチは、別のパッチを適用する前に適用する必要がある修正です。たとえば、パッチ A がパッチ B の前提条件パッチの場合、パッチ A はパッチ B をインストールする前にインストールする必要があります。

パッチの発行

発行済みパッチ(または修正プログラム)は、報告されている製品の不具合や問題を修正することが確認されているパッチの分類で、通常はすべてのユーザーに提供されます。発行済みパッチのみがパッチの更新(Patch Updates) ペインに表示されます(テスト修正は表示されません)。発行済みパッチは、Arcserve [テクニカルサポート](#) からダウンロードできます。

セキュリティパッチ

セキュリティパッチは、製品に重大なセキュリティ上の脆弱性があると報告されている問題を解決するための修正です。

SP

サービスパックは、製品のメンテナンス用の更新を提供する方法です。製品の最新の正式なリリース以降、最近の特定時点までのパッチが累積されています。サービスパックを使えば、それまでに発行されたすべてのパッチとサービスパックを個別にインストールする必要がなくなります。

ステージングサーバ

ステージングサーバは、パッチが Arcserve Backup クライアントにインストールされる前にパッチのダウンロード用の一時的な格納場所として使用されます。ステージングサーバを使用することによって、パッチをローカルにダウンロードするために Arcserve サーバに接続できるサーバを設定できます。インターネットにアクセスできない、または Arcserve サーバに直接接続できない他のすべてのマシン/サーバは、ローカルに設定されたステージングサーバに接続してパッチをダウンロードできます。ステージングサーバは、パッチを必要とするすべてのクライアントに対するローカ

ルリポジトリで、ローカルに設定されたサーバに接続することによってパッチを迅速かつ安全に入手する機能をクライアントに提供します。

スーパーシード パッチ

スーパーシード パッチは、別のパッチを新しいバージョンで置き換えた修正です。

テスト パッチ

テスト パッチ(またはテスト修正)は、報告されている製品の不具合や問題を修正することが確認されているパッチの分類です。Arcserve [テクニカル サポート](#) による配布は、問題を報告したユーザーに限定され、通常すべての既存のユーザーに配布されることはありません。テスト パッチは、Patch Manager GUI のパッチの更新ペインには表示されません。必要に応じて、Arcserve [テクニカル サポート](#) に連絡してテスト パッチを入手してください。